

松岡正子氏博士（文学）学位請求論文審査要旨

## 論文 中国・青蔵高原東部の少数民族に関する民族学的研究 チャン族と「西番」諸集団

中華人民共和国の領内に居住し、「少数民族」と総称され、五十余に分類される人々についての研究は、20世紀後半、外国人研究者が現地に足を踏み入れて、実地に調査することが困難な時期がかなり長い期間続いた。その間は中国人研究者が書いた論文や報告などによるか、民国年間以前に刊行された内外の研究書や地方志などの文献によって研究を進めるしかなく、隔靴搔痒の感が強かったばかりでなく、研究領域の特性からして、はなはだ不十分な状況であったといわざるを得ない。

その状況が変化してきたのは、1980年代後半であり、まだ20年足らずの時間しか経過していない。論者は、この開かれた期間に中国西南部の拠点都市、四川省成都の四川大学に留学し、現地の学者について民族学を学んだ後、地元の実地研究者や研究機関の協力を得て、四川省内における民族調査を精力的に進めてきた一人である。今回、博士学位請求論文として出されたものは、その成果の集大成である。

本論文の主要な対象は、青蔵高原に居住し、古代「羌」族の末裔とされるチャン族、ギャロン、ナムイなどのチベット族およびプミ族などの「西番」と呼ばれる諸集団であるが、それらが民族集団としてどのような特徴をもつのか、共通した「羌」系の基層文化が存在するのか、存在するとすればそれはどのようなものなのかを課題とし、各集団に関する研究をふまえた上で、それぞれにおける「羌」系文化の諸相、伝承、変容の過程と要因を考察したものである。とくにプミ族については、外国人研究者によってはこれまでほとんど本格的調査がなされたことのない集団であり、本論文の中でも最も特色のある部分となっている。

本論文は、序章と本文の1章から8章、結語、研究文献目録からなる。序章では、対象民族集団に関する先行研究の整理と問題点を指摘し、本研究の課題と方法を述べる。第1章から第5章まではチャン族に関する研究、第6章から第8章までは「西番」諸集団に関する考察であり、論者が調査したギャロン・チベット族、白馬チベット族、プミ・チベット族およびプミ族に関する民俗学的考察を展開している。結語では、第1章から第8章までのチャン族と「西番」諸集団に関する考察を踏まえたうえで、各集団の「羌」系文化的要素を指摘し、「羌」系の基層文化について論じる。

巻末の研究文献目録は、2002年までに発表されたチャン族と四川チベット族、プミ族に関する中文・日文・欧文の図書・論文・報告・資料などを、項目別に分け、年代順に記しており、各民族集団における研究の傾向や項目別の研究の動向を知ることができる。

以上のように本論文は大変充実した内容を有しているが、全篇を通して、以下の二点についての課題を解明することに主眼が置かれている。第一は、古代「羌」の末裔と目され

ているチャン族とその周辺に居住する「西番」諸集団が、どのような民族集団であるかを日常生活の視点から現状および変化を分析すること。第二は、これらの民族集団に共通した「羌」系の基層文化があるとすれば、それはどのようなものであるかを明らかにすることである。

このような課題に対して、全篇を通して詳細なデータに基づき論が展開されるが、いずれの章においても既成の文献史料を踏まえるばかりでなく、長期間にわたるフィールドサーヴェイの成果を十分に利用している点も、論者の意見陳述に説得力を増す結果を生んでいる。また、巻頭に各民族の生活の姿を伝える写真を配し、本文中にも図表・イラストを多用することで、内容を視角的に理解できるような工夫が施されるのは、この種の研究としては周到な配慮と評価できる。

結語では、各章の研究成果を踏まえて、チャン族と「西番」諸集団などには共通した「羌」系文化が明白に存在すると主張する。すなわち、チャン語系に属するとみられる言語、祭山会と称される山の神の祭り、神を祀る石積みの塔、巨大な石?、シャーマンの存在がこれに該当する。論者は、その理由を、これらの「羌」系民族集団の居住地が海拔高度の高い峡谷地帯という自然条件による閉鎖的な社会という外的要因と、婚姻関係が狭いことに代表される、行動や意識に対する道徳的規制力が強力に作用する内的要因に求められている。

この指摘は大いに是認できるが、先に述べた課題の第二点のみに関わるものといえなくもない。つまり、論者自身も設定した第一のいわば歴史的な課題はなお十分に解明されているとはいえないように感じられるが、これは残された文献資料の不足からもやむをえないところでもあろう。また、各民族の言語への記述に際して、国際音標記号が施されていないなど遺憾な点も認められるが、近年の生活環境の激しい変化によって、変質を迫られている青蔵高原の民族について、長期間、一つの場所に定点を置いて精力的に調査を続けた成果は、何ものにも変え難い貴重なものであり、今後その価値は一層高まるものと考えられる。

論者は、これまで、このテーマに関する論文を多数発表し、中でも『中国青蔵高原の少数民族 チャン族と四川チベット族』（ゆまに書房）という著書を既に出版している。本論文は一部にそれらの論文や著作との重複が認められるが、主要部分はその後の研究の進展を示す資料によって分析、検討がなされており、前著出版後の論者の研究成果が反映された研究論文であると評価でき、「博士(文学)」の学位を授与するにふさわしい業績と認められる。

2004年1月26日

主任審査委員

早稲田大学教授

稲畑耕一郎

早稲田大学教授

古屋 昭弘

麗澤大学教授 金丸 良子  
昭和女子大学大学院教授 博士（文学）岡山大学 田畑 久夫